



平成 29 年度 徳倉小学校区 第 1 回地域コミュニティ連絡会のまとめ



作成：三島市役所 地域協働・安全課 きずなづくり推進室（TEL：055-983-2708）

7月18日（火）に開催された「平成29年度徳倉小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

■開催概要■

日時	平成29年7月18日（火）19:00～20:45		
会場	北上文化プラザ		
参加団体 (36名)	幸原町自治会 徳倉第1町内会 徳倉第2町内会 徳倉第3町内会 徳倉第4町内会 徳倉幼稚園 徳倉幼稚園PTA 徳倉小学校 徳倉小学校PTA	北中学校 北上中学校 北中学校PTA スクールガード 子ども会連合会 幸原子ども会 徳倉1丁目子ども会 徳倉4丁目子ども会 交通安全指導員会	エコリーダー 環境美化推進委員会 体育振興会 保健委員会 民生委員・児童委員 北上地区地域包括支援センター 保護司会 三島市社会福祉協議会

■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「地域コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の情報を共有しよう」
- 3 「計画案で実践できることを考えよう！」
- 4 「アンケート記入」



「地域の情報を共有しよう」のまとめ

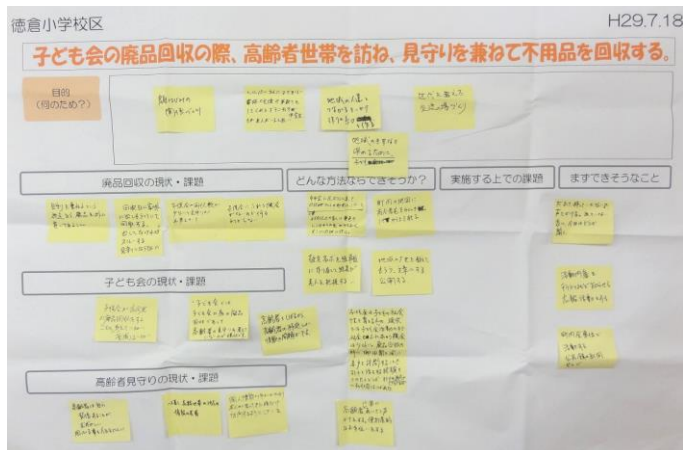
今回の「地域の情報交換」では、小学校区の年間スケジュール表や各団体から出された情報を参考にしながら、各団体間の情報を共有しました。

○「小学校区の年間スケジュール表」について

小学校区内で活動する団体の行事や活動等を各団体と共有し、日程調整等のために活用していただくことを目的に、本年度から小学校区内の団体等の予定を合わせた年間スケジュール表を作成しています。

■主な情報交換の内容

団体	情報の概要
徳倉第3町内会	・7/29(土)に親子肝試し大会を開催します(予備日30日)。昨年から子どもがたくさん参加してくれます。
徳倉6町内会	・8/5(土)に盆踊り大会を開催します。(予備日6日)ぜひご参加ください。
幸原町自治会 (防災委員)	・防災訓練で中学生に参加証を発行しています。 ・校区の運動会の種目でバケツリレーなど、防災に役立つことをやってもらいたいです。
徳倉小学校	・11/9(木)に巡回音楽会を開催します。地域の方もご参加ください。 ・12/1(金)の徳倉小祭りは学校のお祭りです。地域の方もご参加ください!
徳倉小学校PTA	・来年度も小学校の運動会の準備や片付けにご協力ください。
三島北中学校	・9/28(木)の文化祭は、ゆうゆうホールで歌声を披露します。地域の方もぜひ聴きにきてください。
子ども会連合会	・7/2(日)にドッジボール大会を開催しました。盛大に開催することができました。来年もご協力ください。
三島市 社会福祉協議会	・三島市から受託し、「生活支援コーディネーター」の役割を担っています。 ・高齢者のサロン等の“居場所”づくりに力を入れています。 ・地域の困りごとの相談も受け付けますので、お気軽にご相談ください。



「計画案で実践できることを考えよう！」のまとめ

■旗揚げアンケートの結果

きずながつくる協働の取組み計画案に掲載されている取組みのうち、昨年度第2回連絡会で投票数の多かった取組みに絞り、話し合いたいテーマとしてふさわしいものを旗揚げアンケート方式で把握しました。

	子どもだけでなく、大人同士のあいさつも推奨する。	15
	交通安全教室等を通じ、子どもの交通安全への意識を高める。	8
	子ども会の廃品回収の際、高齢者世帯を訪ね、見守りを兼ねて不用品を回収する。	12

その後、選択したテーマごとにグループを作り、グループ別に意見交換を行いました。

■グループ別意見交換のまとめ

グループA	子どもだけでなく、大人同士のあいさつも推奨する。
--------------	---------------------------------

●目的（何のため？）

<気持ちがいい>

- ・あいさつをするとお互い気持ち良い気分になる
- ・人間としての意思疎通を図ることを大切にする
- ・気持ちがいい

<つながりをつくる。顔を知る>

<あいさつで人の繋がりは広がる>

- ・お互いの距離を縮める
- ・人間関係づくり
- ・横のつながり。縦のつながりをつくるため
- ・心の潤滑剤
- ・関心があるという意思表示
- ・地域住民であることをわかりやすくする
→安心感
- ・地域の情報を吸い上げやすくする
→安全
- ・地域の人達との繋がりのきっかけになる
- ・コミュニケーションの第一歩になる
- ・基本。コミュニケーションの第一歩
- ・顔の見える関係づくり

- ・あいさつをしていると知り合いになる。知り合いになると友達になる。友達になると絆ができる
- ・周辺に知り合いばかりだと防犯にも繋がり、安心な町になる
- ・地域の方々とのコミュニケーション
- ・「あいさつに始まってあいさつで終わる」当たり前の事を自然と身につけてもらう
- ・徳倉三丁目は最近住宅が増えたので、知らない人が多く、ゴミ出し等の時はなるべく声掛けしている
- ・あいさつからお互いの思いやりが生まれるように

<関係づくり>

<子育てにつなげる>

- ・旗振り当番の時、通り過ぎる大人や中高生へもあいさつしてみては？
- ・旗振り当番の時、こちらから子ども達にあいさつをすると子ども達が笑顔になる
- ・子育ての為

<見守り防犯に役立つ>

- ・顔と顔（目と目）を合わせてあいさつをすることで地域のつながりや絆を深める他、

ある程度の犯罪を抑止することが出来る

- ・あいさつから見守りにつながる
- ・地域で孤立した人をつくらないように
- ・防犯のため
- ・プライベートが守られた集合住宅のドアを開く事は難しい。出す方法を考える

●校区のあいさつの現状は？

＜外の人と触れ合うことが大切＞

- ・三島の殺人事件
→どうできたか？
- ・家庭でも個別になっている
- ・隣近所だけでも人間関係づくりが大切

＜子どもを地域で育てている＞

- ・通園時に声をかけるように心掛けている
- ・旗振り当番で積極的に声をかけている
- ・雨の日でもスクールガードが旗振り当番をやっている。素晴らしい

●あいさつを推奨する際の考え方

- ・人とすれ違う時に会釈するだけでも雰囲気が変わる
- ・あいさつが返って来なくてもめげない
- ・「あいさつしろよ」と子どもに言ったところ、「大人もしてねーじゃん」と言われた
- ・安易にあいさつだけすればいいというものでもない。子どもは大人を見ている
- ・仲間を作ることも大切

●どんな取組みが有効か？（呼びかけだけでなく）

＜自分から進んで声かけする＞

- ・自分からはできるが他の人にやってもらうのは難しい
- ・誰もが推進委員と思ってやる
- ・雨の日の旗振り当番も大切
- ・中学生はテレもある。会釈だけでもいい
- ・当番制のきっかけづくりも大切
- ・地域の子を将来の加害者にしない。もちろん被害者にしない

＜あいさつする仲間づくり＞

- ・あいさつの仲間づくりも大切

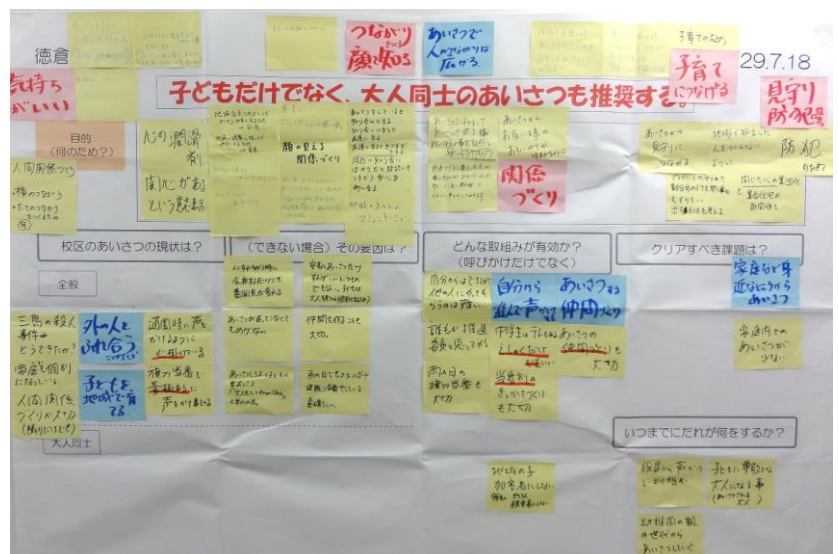
●クリアすべき課題は？

＜家庭など身近な所からあいさつ＞

- ・家庭内でも挨拶が少ない

●いつまでにだれが何をするか？

- ・役員から声掛けに取り組む
- ・幼稚園の親の世代からあいさつしていく
- ・子どもに尊敬できる大人になる事（あいさつされる大人）



●目的（何のため？）

＜命を守る＞

- ・命を守る為が目的。安全意識
- ・自分の命を守るため
- ・自分の身を自分で守る力をつける
- ・子どもの安全（身を守る）ため
- ・孫が新1年生となり、交通事故に遭わないように事故防止の指導をお願いしたい

＜ルールを守る＞

- ・学校で年1回交通安全教室を行う

＜指導を徹底＞

- ・各自がルールを守る事

＜事故を起こさない＞

- ・事故をおこさないため

●現在の状況（確認）

子どもの意識

＜他人ごと。自己中心＞

- ・子ども達は「車がよけてくれる」と考えている
- ・自分が事故をおこすと思っていない
- ・幼稚園児は自分のことと思っていない
- ・横に並んで下校してしまう

＜他人任せ＞

- ・スクールガードが立っていると止まらないで通る子がいる

交通安全の取組み

- ・スクールガード（毎日）
- ・PTA 役員交通安全指導
- ・行政で道路拡幅して歩行者の安全確保
- ・幼稚園で交通安全教室をしている。指導員から話を聴き、親子で実地訓練をしている。
- ・徳倉には交通安全指導員が1人しかいないので、活動できない

●どんな教室がよいか？

主催者

- ①家庭
- ②保育園、幼稚園、小学校
- ③地域（公民館）

対象者

- ・父兄が参加
- ・高学年になると、横断歩道で手を上げない
- ・警察署の指導員に講習をしてもらう
- ・低学年は親の手から離れるので危険

テーマ・内容

＜ルール指導＞

- ・交通ルール指導
- ・交差点、狭い道路より広い道路に出る時に一旦停止をして安全確認をする
- ・横断歩道の渡り方。自転車の乗り方
- ・スクールガードとして、一旦停止を必ず習慣づける様に指導していく

＜危険を体感＞

- ・自分事として感じる事ができる教室
- ・車の危険を体感できるものを
- ・言ってもわからない。映像で見たり体験したりしないと効果なし

●クリアすべき課題

＜まずは家庭＞

- ・子どもに対する親のしつけが必要

●実施に向けてまずやること

- ・交通安全と語る会と教室をリンクさせる
- ・被害者の話を聞いて命の大切さを実感する
- ・左右の確認と手を上げる習慣づける

＜自分ごとにする！！＞

子ども会の廃品回収の際、高齢者世帯を訪ね、 見守りを兼ねて不用品を回収する。

●目的（何のため？）

<地域のきずなづくり>

- ・顔なじみの関係づくり
- ・ヘルパーさんにはできない電球の交換や、草取りをしてくれるボランティアの中学生とか友人がいると良い
- ・地域の人達とつながる糸口を作る
- ・地域のきずなを深めるため
- ・世代を越えた交流の場づくり

●廃品回収の現状・課題

<見守りを兼ねることは難しい>

- ・見守りを兼ねるという視点なら、廃品を外に置いてあることが課題
- ・回収日に家の外に出してもらい回収するが、出してなければスルーするので、見守りにならない
- ・子ども会の回収数が少ないと見守りが出来るか？
- ・子ども会との関わりがないのでわからない

●子ども会の現状・課題

<高齢者の見守りは考えていない>

- ・子ども会が高齢者の廃品回収をすることを考えていない。意識していない
- ・子ども会では、子ども会の為の廃品回収であって高齢者の見守りを考えていないのが現状
- ・高齢者と絞るから、高齢者の特定とか情報の問題が出る

●高齢者見守りの現状・課題

<個人情報の問題がある>

- ・高齢者は自ら発信することが難しい。困っていることを伝えるににくい
- ・1人暮らし、高齢世帯の所在の情報を共有している
- ・個人情報の件が関わり、本人が言ってきた時だけ訪問するようにしている

●どんな方法ならできそうか？

- ・庚申堂に定例会に集ってアルミや新聞を回収している。65歳以上の家に黄色のハンカチをかけておく。そこに回収に行く
- ・敬老名簿を組単位に作り直して組長が老人を把握する
- ・町内の地図に高齢者宅をチェックしてチラシを配る
- ・地域の歴史を教えてもらう。文章にする。公開する
- ・子ども会は子どもの社会性を育てるもの。現状では子ども会活動の中で社会とふれあう機会は少ない。廃品回収の時に御用聞き風に各戸を訪問する事で大人と話をする経験をさせたらどうか。大人の様々な反応に子どもも感じる事がある。
- ・高齢者に常にあいさつ、声かけをする。便利屋的なお手伝いをする

●まずできそうなこと

- ・黙って持って行かないで声を掛ける。出ていない家に、今日はどうか聞く
- ・募集内容をチラシなどで知らせる広報活動をする
- ・町内会単位で活動する。公民館の利用、サロン